

自己評価結果公表シート（平成28年度）

学校法人 睦美学園 むつみ幼稚園

1 本園の保育方針

「考える幼稚園」として、子ども・先生・保護者・地域の皆さんをはじめ、幼稚園に関わる全ての人が自ら考え、そしてみんなで考えることのできる環境づくりに取り組んでいます。

大切にしていること 夢中になって遊ぶこと・考えるための自由があること
失敗をおそれないこと・進んでまわりみちをすること・ぶつかりあうこと

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもたちが自ら考え、主体的に遊ぶことができるような環境づくりに取り組む。また、昨年度の保育課程の見直しにより、遊ぶための時間が増えたことを利用し、物事にじっくりと取り組めるように見守っていく。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
保育環境の充実	「一人ひとりが輝けるように」をテーマに、こどもが遊び込める環境づくりに取り組んだ。素材の種類や置き方、レイアウト、空間の作り方やルールなどの見直しを行った。その結果、こどもが主体的に環境に関わり、次々と新しい遊びを生み出したり、長く続く遊びができるようになってきた。また、一部のこどもばかりが目立つのではなく、いろいろなこどものいいところが発見できるようになってきた。
園庭環境の見直し	新園舎の完成に伴い、園庭の環境についても見直しを行った。特に自然環境を大切にし、子どもが一年を通じて季節を感じながら遊べ、また、様々な遊びができる懐の深い園庭になるように植樹を中心とした園庭緑化に取り組んだ。
ホームクラスの見直し	「おうち」のようなホームクラスで、長い時間落ち着いて活動できるように、新しいルールづくりに取り組んだ。一斉に行う活動を無くし、園庭、保育室のどちらでも遊べる時間を増やした。おやつも時間内であればいつでも食べにきてもいいようにした。その結果、もっと遊びたい子、ゆっくりしたい子など、それぞれのペースで生活することができるようになり、安心して過ごしている姿が多く見られるようになった。
保育者の質の向上	園外研修に関しては保育者自身が選択し参加している。また、学期ごとに各クラスでのふりかえりや保育環境についての話し合いを行った。さらに、大阪市からの研究指定により、「遊びの中で発見の多い環境づくり」についての研究発表を行った。
子育て支援の充実	子育て支援の一環として、新たに未入園児親子クラスを始め、多数の親子に参加していただいた。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新園舎や園庭が完成し、新しい環境へ早く適応すると同時に、こどもの主体的な活動を中心とする保育方針の推進を目指した1年であった。新しい環境への適応という点では、こどもたちが積極的に環境に関わり、新しい環境に適した新しい遊びを次々と発見していく姿を目の当たりにした。研究発表を行ったことにより、これまでの取り組みの振り返りができたことも保育者にとって大きかったようで、いかにこどもの遊びが変化してきたか、そして、そのためにこどもをじっくり見守ることの大切さに気付かされた。

今後、この保育方針を先に進めるためには、保育者がこども一人ひとりをしっかりと理解し、適切な関わりを持っていく必要があるだろう。そのために、保育課程の整備やこども理解のための研修を行っていききたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
保育環境の充実	今年度に取り組んできたことをさらに進めていきたい。クラスの中心的な子どもだけでなく、全員が遊び込むことのできる環境づくりを行っていく。また、単発の遊びばかりではなく、遊びが発展し、たくさんの子どもが主体的に参加できるような遊び環境について考える必要がある。
園庭環境の見直し	新園舎の完成に伴い、園庭の環境についても見直しを行う。特に自然環境を大切にし、子どもが一年を通じて季節を感じながら遊べ、また、様々な遊びができる懐の深い園庭づくりをしていきたい。
本館園舎の環境改善	新館と同様、ハードとしての環境改善を本館でも進めていきたい。改修工事で空間を広く使えるようにしたり、保育室や廊下の木質化を行い、落ち着いた環境づくりに取り組んでいく。
異年齢の交流	地域の機能が低下している今、年齢を超えたコミュニケーションを取る機会が極端に減っている。現在ではホームクラスで異年齢の交流が行われているが、普段の保育からも意識的に交流できる機会を増やし、年長児が中心となって、こどもたち同士で育ち合える保育を目指したい。
保護者参加型の保育へ	主体的なこどもの活動が増えるにつれ、「幼稚園で何をしているのかわからない」、「ただ遊んでいるだけ」といったご意見をいただくことが増えた。今後、幼稚園のことをもっと知ってもらったり、先生として参加してもらったりするなど、保護者といっしょに子育てのことについて考えられる仕組みを作っていく必要があるだろう。
保育者の質の向上	こども一人ひとりの育ちをしっかりと理解し、見守ることを大切にしていくなため、考えを共有できる研修を行っていく。また、保育を広く公開したり、発表していく機会をつくり、いろいろな考え方を取り入れていきたい。

6 学校関係者評価委員会の意見

「新しいことにチャレンジする姿勢は良いのでこれを続けていくべき」

「あいさつができる子が減っているののでしっかりと指導してほしい」

「認定こども園化に向けてスムーズに移行できるように取り組んでほしい」

とのご意見をいただいた。